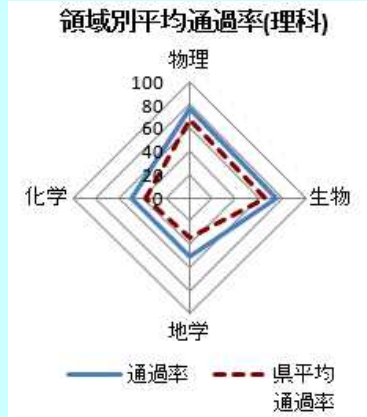


「基礎・基本」定着状況調査 本年度通過率 (本校 62.8 %, 県 50.8 %)

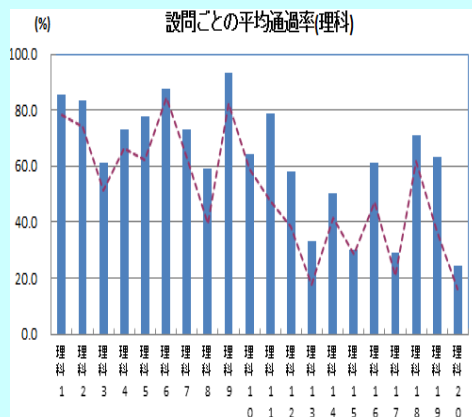
対県比 124%

本年度の結果について

領域別平均通過率



設問ごとの平均通過率



学力定着実態調査 本年度正答率

本校 64.1%
全国 61.1%

対全国比 105%

○ 理科の結果において、タイプⅠは67.1%、タイプⅡは56.4%の通過率となっている。タイプⅠにおいて県平均を12.6p上回っている結果から、基礎的・基本的な内容については定着が図られていると考えられる。

○ 昨年度は、物理の分野で課題が見られた。また、授業で学習したことと身近なものに関連付ける力や、実験結果を解釈し結論を導き出す力が定着していないことが分かった。そこで次の2点を徹底した。1点目は、薬品のはたらきや語句の意味を確認し、見通しを持たせて実験や思考活動に取り組みさせた。2点目は、実験結果と予想を比較させ、自分の考えを筋道立てて説明させた。その結果として、通過率が物理ではタイプⅠは73.1%、タイプⅡは80.6%、これらの結果から、基礎的・基本的な知識は昨年度に比べ、身に付いたことがわかる。

重点課題

「基礎・基本」定着状況調査

【課題1】(地層の重なり方) (30.1%)

3つの露頭の様子から、露頭と露頭間の地層の様子を思考し、それを元に思考して、仮設が正しいかどうか検討する力が身につけていない。このことから、断面の様子を表現することで、その地域の地層の様子を説明する力がついていないことが分かる。

【課題2】(パルミチン酸の融点の測定) (24.3%)

融点は物質によって決まっていること、加熱する物質の量を半分にするると加熱時間が半分ですむことを理解し、この2つの仮説を元に、どのような実験結果になるか、グラフで表す力が身につけていない。物質を加熱したときの状態をイメージすること、グラフに表す力の両方が必要である。

重点課題に対応した改善指導内容及び方法 (授業)

「基礎・基本」定着状況調査

【課題1】目標値 (50.0%) 実施後数値 (%)

地層の断面や前線の様子を説明するために具体物等を利用し、立体的に考察させる。立体的なイメージを持たせ様子を説明させる。

【課題2】目標値 (40.0%) 実施後数値 (%)

授業の中で、実験で得たデータから表やグラフを作成し、それを用いて考察を行うことは多いが、その実験から分かった性質を元に、仮説を立てさせる活動が少なかった。そこで、仮説を立てさせ、なぜそのような変化をするのか考えたのか説明させる活動を授業で行っていく。

※今後の改善計画については別紙